



郷土史

ていね

第 81 号
平成 26 年 9 月 21 日
手稲郷土史研究会会報

第 100 回(平成 26 年 8 月 13 日)定例会の講演要旨

歩いた！ 探した！ 見つけた！ まちかどタイムトラベル 札幌軟石発掘大作戦

札幌建築鑑賞会（富丘在住） 菅原 純子 氏

観光名所として知られる小樽運河の石造倉庫群も、その多くは「札幌軟石」を用いて建てられています。“札幌”の名を冠する石材に私が興味を覚えたのは、実は修学旅行先でこのことを知った当時小 6 の娘の自由研究がきっかけでした。

明治のはじめに現在の南区石山周辺で採掘が始まった札幌軟石は、加工しやすく断熱と耐火に優れた建築素材として北海道の開拓とともに各地へ広まり、札幌の街も、軟石の建物によって重厚で風格ある街並みがつくられました。しかし、コンクリートが普及し、採掘も宅地化など周辺環境の変化から難しくなったため、札幌軟石が建築に使われることは次第になくなりました。都市化の進展にともない、軟石の建物は確かに往時の姿を消しつつありますが、それでもいたるところに名残をとどめ、歴史の重みと趣を私たちに感じさせてくれます。工業製品では得られない温かみのある素材感もまた、軟石の魅力のひとつです。

“わが街の文化遺産”ともいうべき札幌軟石は、いったい、市内にどれだけ残っているのでしょうか。意外と知られざるその実態を、2005 年以来、札幌建築鑑賞会が調べてきました。『札幌軟石発掘大作戦』と銘打たれたこの取り組みには私も初年度から参加し、地図を片手に 50 余名のメンバーがこれまで探し出した蔵や倉庫、住宅、門柱、塀、煙突、灯籠、狛犬などの物件は、すでに 2,500 を超えます。

「お宝ファイル」と呼ばれる報告書からは、札幌の街の成り立ちやかつての産業の様子なども垣間見ることができました。たとえば、ビルが林立する都心部においても札幌軟石はしっかりと息づいています。ほとんどは明治～昭和初期に建てられたもので、当初の用途をみると商家の蔵や質蔵が多く、古くから人々のにぎやかな往来があったことがうかがえます。エキゾチックな佇まいの明治期築の教会も健在です。北大構内に現存する建物の一部は、重要文化財の指定を受けています。豊平川や創成川沿岸では、水利を生かした醸造業に由来する建物が確認できました。また、平岸ではリンゴの収蔵庫や撰果場、丘珠・元町から札幌駅方面へ農産物を輸送するの



極東煉乳ゆかりの石造サイロ(手稲前田)

大きな役割を担った道道花^{ほんなぐら}畔札幌線沿線ではタマネギ収蔵庫、月寒・真駒内・上野幌などでは北海道酪農の先駆者にゆかりのサイロが残されていました。そして、石山・常盤では公共施設から住宅や倉庫にいたるまで数多くの石造物件が見つかり、さすが“札幌軟石のふるさと”と実感できました。特色ある地域の歴史を物語るそれら軟石の建物のいくつかは、飲食店やギャラリーなどに再利用され、「レトロ感がおしゃれで素敵…」と親しまれています。

では、軟石の生産地から市内で最も離れたところに位置する手稲区ではどうでしょう。残念ながら古い建造物はおおかた失われていましたが、郊外の牧場遺産や神社仏閣の工作物などに、予想をはるかに超える札幌軟石を発見！ さらに郷土資料をあたってみると、明治期にまで遡る軟石との関わりが随所に示されており、思

わめ縁に驚きました。

ふだんは何気なく通り過ぎる街かども、視点を変えると新たな発見があります。「札幌ならではの」素材を手がかりに街の魅力を探ろうというプロジェクトの開始から 10 周年となる来年は、全市の成果をまとめて発表できることをめざしています。



手稲の？に挑む

稲穂 一ノ宮 博昭 氏

150 年の星霜に近づく自治体には、どうしてそんなことになったか、説明のつけにくい事象があるものです。手稲にもやっぱりあります。風聞を交えながら、思いつくまま拾いあげてみました。

◇手稲最後の町長は、なぜ道議選に敗れたのか

昭和 42 年 9 月 31 日施行の道議選は、旧手稲町民にとって全札幌を対象とする大型選挙には不慣れとの理由で、石狩支庁を選挙区とする変則選挙となった。結果は、別表 1 のように蓑輪早三郎前町長は次点で落選した。

蓑輪氏といえば、手稲の町長を 5 期務め、全道町村会会長も歴任、道庁の会議ではいつも知事か大臣の隣に座る大物だった。蓑輪氏の立候補は、即当確の前評判だっただけに、旧町民はなぜだ、なぜだと首をかしげた。その差はわずか 291 票だった。

当森春一（自民前、恵庭市）	17,721
当村本三郎（社会新、恵庭市）	16,194
次蓑輪早三郎（自民新、手稲区）	15,903

その原因は選挙の区割りに起因していた。発寒川から西側はすべて手稲、24 軒手稲通りから北は手稲、南の線路側が札幌だった。札幌の立候補者は選挙区外にもかかわらず旧手稲町側で街宣した。手稲はやがて札幌と合併すると見越した新住民が急増していた。その結果が票となって表れた。

別表 2 のように、無効票が 701 票あった。その中で、最も多かったのが候補でないものの氏名記載が 579 票もあった。ほとんどが札幌の候補者だった。つまり、蓑輪氏は異例となった選挙制度に敗れたのだった。

候補でないものを記載	579
候補名のほか雑事記載	13
どの候補を書こうとしたか判読不能	15
白票	49
雑事記載	18
記号、符号記載	21
など	
合計	701

◇手稲合併に反対町議はいなかったのか

合併後、分厚い手稲町誌が発刊された。この中で合併の経緯は大きく紙幅を割き説明されている。が、賛成、反対の数が見当たらない。町議会の動向がはっきりしないのである。当時、議会の特別委委員長だった松井武市議員は、道新のあれから（平成 15 年 12 月 28 日）欄で、反対 3 だったように思うと語っている。

が、町議会を傍聴していた小生は、反対が 4 だったように記憶する。当時、社会党籍の議員 2 人は時期尚早を理由に批判的だった。もう 1 人は無所属ながら蓑輪町政に反対していた。もう 1 人が、妙な行動に出た。特別委員長報告には反対で、合併の本議案には賛成した（あるいは逆だった可能性も）。記者たちがこの議員に詰め寄った。すると、この議員は「考えれば考えるほどわからなくなってきた J」と答えた。このため、町誌で賛否の票を記載できなかったとみられるのだ。

◇手稲山頂が手稲でない不思議

手稲区民ならだれでも手稲山は手稲区のものだと思っている。ところが、地図をよく見ると、山並みの頂上部分を西区との境界としているものが、山頂部分になるとぐーっとカーブして、手稲側から見える崖部分だけが手稲であり、残る南側はすべてが西区のものとなっている。

真っ先に放送塔を設置した HBC は登記簿謄本で西区平和 439 番地の 1 としている。手稲神社の奥宮が山頂にあるが、これも HBC からの借地だという。放送各社だけでなく、道警、開発局などの施設もすべて西区だ。

手稲が西区に併合されていたときはそれで良かったが、何とも納得できない。が、だれもこれに手をつけようとしていない。

【次頁へ】

★ 開拓使研究部

第2回 2014/8/27

「栄光と挫折の依田勉三」について村元健治会員からの基調提言がありました。

依田勉三。拓聖、農聖として地元などを中心に高い評価を得る、しかし現実はどうであったか。

入植にあたって2回の事前視察を行い十勝を入植地に選定、開拓史に願い出るが警告を受ける(資本金5万円は過少、道路、耕地など受け入れ整備が出来た札幌に)しかし十勝に執着、「節約を事とし、促成を望まず、専ら晩成とする。としてオベリベリ(現帯広市)明治16年4月依田勉三、渡辺勝、鈴木銃太郎と27名で入植、しかしバッタの大群、野火、害獣、等の予想もしなかった困難にぶつかり、開墾は進まなかったが、その他として、十勝農業の安定作物として大豆の発見や水稲栽培の成功、酪農における先駆活動に見るべき業績をのこした。

手郷研クイズ

手稲山の高さは何メートルでしょうか？

【ヒント】0,1,2,3の数字を並べかえると答になります。

一方、晩成社の没落は劣悪な小作人の気質、労力不足、勉三の交際嫌いで激しい性格も一因であり、兄、勉三に代わって弟(依田善吾)が帯広開発の真の功労者(井上 寿氏 指摘)

* 北海道農業会議発行『北方農業』

井上 寿「栄光と悲劇の開拓者・依田勉三」(60・4月号~61・8月号)から整理「村元会員と一緒に仕事をされた方です。」

以上の基調提言の後、会員の意見交換が行われた。そこでの話し合いの内容は「人間だれでも色々評価されるが、依田勉三の残した功績は評価されて良いだろう」と、まとめられる。(記、濱埜)

..... ◇ ◇ ◇

【前頁より】

◇ 稲穂で出店しているのに「金山」、高速道PAの怪

区役所が手稲の碑一覧を作ったとき、PA店長と名刺交換した。このとき、はじめて上り線は手稲区稲穂5-6-302-37

下り線は手稲区稲穂5-7-10-1とわかった。

なのに、「金山」とは妙といわねばならない。

どこのパーキングエリアもその土地名を冠しているのに変としかいいようがない。

◇ 脱獄魔・白鳥、富丘の石蔵から米持ち出しの手法

青森の家族に会いたい一心で4度目の脱獄をした白鳥由栄は、富丘の光風館南側にあった手稲鉾山の試掘坑をめぐりに南下の機会をうかがっていた。生活用具、食料は近くの農家から調達した。

石蔵に忍び込んだ手口が巧妙だった。狂ったように吠え立てる番犬を手なずける手口は、するめを針金でぐるぐる巻きにして与えた。その匂いと味に番犬は、吠えるのを忘れた。明り取りの窓を破って侵入、保管していた米を持ち出した。暗闇の中で米を見つけるだけでも大変なのに、祖母が使い古した帯をみつけ、中の芯を引き抜いて長い袋状にし、その中心を明り取りにかけ、米を入れたくし上げて外に出し、2俵もまんまと盗んだ。

この手口を紹介するにあたって、北海道警察史、吉村昭の破獄、富丘今昔物語を点検したのだが、ついに出てこなかった。小生が勝手に創作した話ではないので、近日中に出典を明らかにしたい。

なお、白鳥は府中刑務所に移送されてから

模範囚となり、仮出獄しているので、本来なら敬称をつけねばならないところ、事件の性格がら省略した。

次回の予定

次回(10月8日)は、佐藤至氏の「国鉄の話」と村元健治氏の『手稲歴史郷土資料館』設置の取り組みについて」の研究発表および意見交換を予定しております。会場は、視聴覚室です。

追悼 國岡茂夫氏を偲ぶ

手稲郷土史研究会会長 茂内義雄

去る8月9日ご逝去されました。私たち、郷土史研究会にとりましてもかけがえのないお人でした。ご功績の幾つかを紹介します。かの「バッタ塚」の恩人です。

バッタ塚 土地所有者「手稲の国岡氏」が市に寄付 “遺跡とし保存を” 島倉教授ら現地視察

明治十三年、十勝地方で大発生したバッタの大群を退治しようと、当時の金で百二十万円も投じて作った「バッタ塚」を、土地所有者が札幌市に寄付することになり、十二日市文化財保護委員の高倉新一郎北星学園大教授、島倉享次郎北大教授らが保存場所確認の現地視察を行なった。

この「バッタ塚」を寄付するのは札幌市手稲稲穂一〇四、東京拓地会社長国岡重男さん（四三）。国岡さんは旧手稲町などで手広く土地分譲をしてきたが、さる三十七年、同市手稲山口三七〇、平佐増蔵さんから原野三十ヘクタールを買った。ところが一部分譲をはじめてから、この土地の中に「バッタ塚」のあることを新聞で知った。土地の長老からバッタの襲撃を防ぐためになみなみならぬ苦労があったことを聞いた国岡さんは「そんな由緒のあるものなら保存してもらおう」ということになった。

この話が具体化したのは昨年で、ちょうど札幌、手稲の合併機運が盛り上がっているときでもあり、札幌市は喜んで国岡さんの好意を受けることになったもの。

このバッタ塚は、大浜海水沿場の南約七百メートルの地点にあり、幅約一・五メートル、高さ〇・五メートル、長さ百メートルで、五メートル間隔にいく筋もの砂丘状態となっているところ。

道教育史編集委員井黒弥太良氏の新聞寄稿によると、明治十三年、十勝地方で大発生した体長七センチ前後の通称「トノサマバッタ」が日高山脈を越えて石狩開拓地へ大移動をはじめた。空は一面真っ黒になるほどで、当時、国や道は大砲まで持ちだしてバッタの撃退作戦を展開した。しかしバッタの威力はものすごく、作戦はみごとに失敗して石狩湾岸の旧手稲町山口に住みつくようになった。農作物はおろか、農家にまでバッタははいり込み、生後まもない赤ちゃんにむらがってかみ殺したり、付へ近一带を食い荒らして無毛の地にしてしまったという。

このため国は当時としては異例の農民のベ六万人を動員、経費百二十万円をかけてバッタの住みついた砂地一帯の四、五十ヘクタールを覆土、バッタ禍はようやくおさまった。この盛り土の跡が「バッタ塚」として現在まで残っていた。

高倉教授らがスコップでツカを掘り起こしたところ地面から十センチ前後のところ黒い腐食物を見つけた。一部を大学に持ち帰ってくわしく調べることになったが「バッタの遺ガイ」に間違いないという。

付近一带は「山ロスイカ」で有名なところで、畑のいい肥料になるところから農家が持ちだし、またさいきんの土地ブームでせつかくの遺跡も忘れ去られるところだった。しかし、国岡さんの好意で保存が可能になったわけで、保存に一番つごうのいいところ約一千平方メートルを寄付することにしており、市教委では「国岡さんの好意に感謝したい」といっている。

視察を終わった高倉、島倉両教授も「新得町には見えない形のバッタ塚が残っているが、札幌市内からもツカが見つかって非常にうれしい。近く保護委員会を開いて指定を急ぐつもりだ」と語っていた。（読売新聞：1967.5.13）

3年程前（平成23.9.14）の定例会にご足労願ひ、当時の経緯を淡々と語って頂いたことが浮かんで参ります。（会報46号参照）

昨年、前田農場「駐輦記碑」移設に際しまして先ず文化財保護のあり方をご相談に上がり、親切なお話らご厚志を頂いたことはご承知の通りです。

先生から学ばせて頂いた地域にとっての文化財を大事にしていく姿勢を守り伝えていきたいものです。享年89歳、安らかに眠り下さい。

